P5

2007 年度終了学内共同研究

バンテアイ・クデイ寺院から発掘された廃仏 274 体の比較研究

石 澤 良 昭

アジア人材養成研究センター

1．バンテアイ・クデイ発掘調査と仏像埋納坑

仏像埋納坑検出状況（2001）

上智大学アンコール遺跡国際調査団は、2000 年から 2001 年にかけての発掘調査を通じて、274 片にのぼる仏像群を検出した。調査の結果、人為的に壊されたと推測される仏像が一括して坑（仏像埋納坑）に埋められ、さらにその上は盛り土によって覆われていたことが明らかになった。坑の規模、仏像を埋めた作業手順等についても、一定の解釈が得られている。

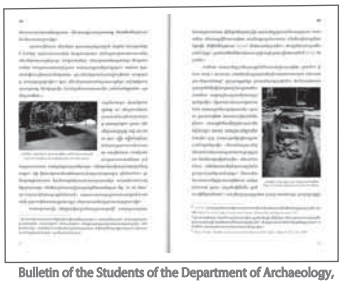
2．成果報告

発掘調査の経緯とその成果については、協会第 70 回総会研究発表（2004 年）、および協会第 73 回総会研究発表（2007 年）等にて報告しており、そちらを参照されたい。詳しい調査報告・論考等は日本語や英語によって発表されている。

また、この発掘に実習生として参加した王立芸術大学（在プノンペン）考古学部学生達が実習終了後に、同学部紀要へ実習報告を兼ねた調査速報をカンボジア語で投稿している。

学生実習風景（2001）

学生による報告（カンボジア語）



Bulletin of the Students of the Department of Archaeology, Royal University of Fine Arts, no.2, Februray 2002

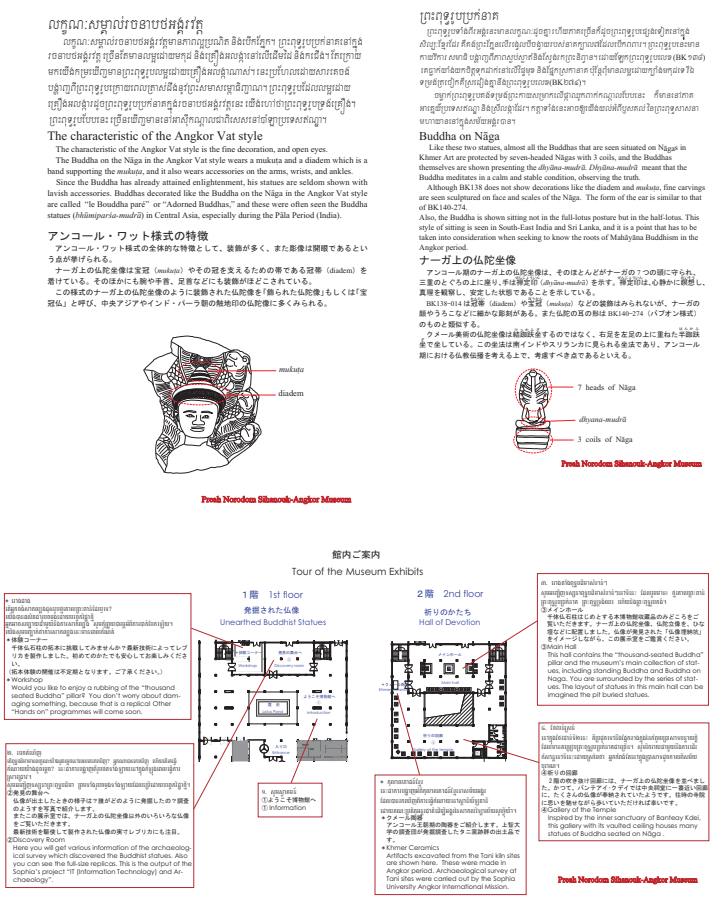
3．一般公開にむけて－博物館建設－

出土した仏像群は一時的に上智大学アジア人材養成研究センター（シェムリアップ）にて保管されていた。一方で、カンボジア政府と上智大学は、これら仏像群を「一括遺物としてまとめて管理し一般公開する為にはどのような方策があるか」について協議を重ねた。幸い、イオン 1%クラブの全面的な資金援助を受けて専用の博物館が建設されることが決まり、展示は上智大学が準備を進めた。展示設計は森美術館（六本木）の武部圭男氏からご協力いただいた。諸作業は調査作業員として実際に仏像発掘に携わったロハール村の男衆が担った。展示に際して必要とされた彫像の修復等は、プノンペン国立博物館修復部門へ依頼した。青銅製小型仏像等 3 点は、日本への持ち出し許可を得た後、（財）大阪市文化財協会にて保存処理作業を終えた。

こうして博物館は 2007 年 11 月 2 日に完成記念式典を執り行い、2008 年 1 月 2 日から正式に一般に公開されている。

最初の仏像発掘から実に 8 年が経っていた。

4．比較研究と展示解説の作成



展示解説の一部

作成（宮崎晶子、松浦史明）

バンテアイ・クデイ Banteay Kdei

カンボジア北西部シェムリアップ州に位置するアンコール期（西暦 802 ～ 1431 年頃）の石造建築群のひとつ。ジャヤヴァルマン 7 世治世下 12 世紀末頃に建立されたと考えられている大乗仏教寺院。

上智大学アンコール遺跡国際調査団

1989 年 3 月、第 1 次調査団を派遣して組織的な活動を開始。団長石澤良昭（上智大学学長）。建築班、考古班、窯跡班、社会文化調査班などから成る。調査団の現地活動拠点として、上智大学アジア人材養成研究センターがある。 考古班は、1991 年からバンテアイ・クデイで発掘調査および、人材養成プロジェクトの一環としてカンボジア王立芸術大学学生を対象とした現場実習と文化遺産集中講義等を継続実施中。 考古班の主たるメンバーは、中尾芳治（帝塚山学院大学）、上野邦一（奈良女子大学）、菱田哲郎（京都府立大学）、宮本康治（大阪歴史博物館）、田畑幸嗣（上智大学）、丸井雅子（上智大学）。現在は、カンボジア政府のアプサラ機構と連携して全ての調査および遺跡の維持管理作業を進めている。